

令和6年度 静岡県立浜松南高等学校第3回学校運営協議会議事録

I 日 時

令和6年12月20日（金）午後13時30分から15時30分まで

II 場 所

静岡県立浜松南高等学校 第一応接室

III 出席者

学校運営協議会委員

鎌田 徳之（PTA会長）

川嶋 利幸（浜松ホトニクス株式会社 産業開発センター長）

塩見 彰睦（静岡大学大学院総合科学技術研究科情報学領域 教授）

林 左和子（静岡文化芸術大学文化政策学部 教授）

山下 広祐（株式会社春華堂 直営部運営推進課長）

欠席者

川嶋 利博（新津地区自治会連合会長）

奈木真由美（同窓会会長）

学校職員

校 長 鈴木 学

副 校 長 加藤 文人

事 務 長 村松 傑

教務主任 小粥 俊輔

欠席者

教 頭 山崎 修司

IV 内 容

1 理数科探究発表会参観

2 校長挨拶

本日、理数探究発表会を参観していただいたが、理数探究は新課程で導入され、先行実施を除くと本年が2年目である。御覧いただいたとおりの内容であるが、辛口の御批評等をいただいて、それを学科に戻し、更なる発展をしていきたいと思う。

また、学校改善や課題についても御意見をいただきたい。

3 学校運営に関する協議（進行：塩見会長）

(1) 浜松南高校の探究学習について

ア 加藤副校長 説明

(ア) 探究学習について

探究学習とは日常生活や社会の中にある問題について、その本質を自ら探り、真の姿を見極めようとする学習のことであり、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のプロセスを進めていく。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するものであり、人生を生き抜くために必要な学びとして重視されている。

従来、小中学校では「総合的な学習の時間」の中で行われている。高校では「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に替わり、更に各教科の学習の中で様々な探究科目が設定され、本校では教科科目としての探求学習として「理数探究」が設定された。

従来の受け身の学習から、主体的に学びを深める学習に転換を図られ、これまでは「何を知っているか？」ということが重要だったが「知っていることを使って何ができるようになるか？」ということが重視されるようになる。

高等学校学習指導要領の中では、卒業までに3～6単位を確保することが定められている。1単位は年間35時間相当の授業で認定される。

「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す」ということを目標として定められている。

学校教育法が示す学力の三要素「主体的に学習に取り組む態度」「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」に基づき観点別評価は付けられる。

探究学習を実施するうえで生じる課題と解決策について、よりよい社会を創る考え方を学校と社会が共有しなければならないということから、保護者の協力やコミュニティ・スクール等との連携が求められる。

(イ) 理数科の「総合的な探求の時間(1年)」「理数探究(2年)」

1年生は「総合的な探究の時間」を1単位として設定、2年生は「理数探究」を2単位設定している。

1年生については、一般的な時間割に組み込むのではなく、土曜日や長期休業中に実施する理数科行事に参加することで単位認定している。

2年生についても同様に理数科行事に参加することで単位認定している。

具体的な理数科行事の内容であるが、1年生では、浜松土木事務所と連携し、防潮堤を見学、名古屋大学工学部の教授を招いて放射線セミナーの実施、静岡大学、電気通信大学の講演、浜松ホトニクス訪問などがある。

2年生では、東京大学金曜講座をリモートで受講、静岡大学で実験実習講座、国際教育推進として台湾への研修旅行を実施している。

理数科生徒は土曜補講や夏季補講が必修となっている。

(ウ)普通科の「総合的な探究の時間」

1年生は木曜日の7限目を「総合的な探究の時間」として1単位を設定。
2年生は研修旅行に関する内容を含め1.5単位を設定。3年生では0.5単位を設定。

具体的な内容であるが、1年生では、自己の進路に関する課題に対し、思考ツール等により課題解決に向けた手法を身に付けることを学んでいる。進路プレゼンでは、文理選択について考え、夏の三者面談で説明する。学校改善プレゼンでは、学校改善のための建設的な策を考えてプレゼンする。

2年生では、大学の学部学科調べ等や、小論文指導の講演を実施して、単に小論文を作るということではなく、第三者が納得できるような説明力をつける。

3年生は1学期までの間に自身の更なる進路に向けての課題について、様々な意識を高めていくこととしている。

【委員より意見・質疑 等】 ○委員 →学校関係者

○理数探究学習については、本日のプレゼンテーションで終了か？
文章にまとめるのか？

→3学期に論文集を作成するため、文章にまとめる。

○大学生もプレゼンテーションは上手である。論文は意見を一方的に言うのではなく、数学の証明問題のように、与えられた前提から論理的に結論を導き出すプロセスと似ている。質疑のやり取りの中で、足りないところを理解し、文章を書くことができると小論文対策になると思う。

○説明された様々な行事は、理数探究が設定される以前から行われているのか？

→理数科では実施している。

「総合的な探究の時間」になる前は「総合的な学習の時間」であり
「理数探究」の以前は「課題研究」という授業であったが、行事内容は変わらず実施している。どのように捉えていくかというところについては、各担当で工夫しながら扱っている。

○より能動的に参加するというスタンスか？

→そうである。

○プレゼンテーションも自身が学生の頃と比較して高度で、優秀な人材が育っていると率直に感じ、頼もしいと思った。自社においても目的意識を持った優秀な学生が入社してくるが、やりたいことに対しては積極的に取り組み、そうでないことには、ほどほどの関わり方という感じの方もいる。純粋に課題の与え方かなと思っている。

今回の研究の中でも気づきや、例えば社会課題などに着地しながら次のアクションに繋がっていけると更に良くなってくると思う。

○自社では、50件ほどの研究テーマがあり、様々なレベルの発表の評価をしている。本日の生徒の研究発表は、聞き手を引き付けるプレゼンテーションで非常に良かった。大学から会社に入り、更に専門分野に集中していくにしたがって、段々とわかりにくくなってくる。このような試みを高校時代にやっていることは非常にありがたい。この良さを大学にどう引き継ぐか？アカデミックな話においては、厳密に正しさを追求し、深みを深化させるが、一方で、伝えやすさ等を失わない人材育成について考えた。

○今回のように研究をし、発表することは非常に良い機会だと思う。

プレゼンテーションは上手いと思うが、答えを見せないようにしてスライドを作っていくが、スライドのつくりやスピード、タイミングが早く残念であった。大事なスライドは1枚にまとめて、差し棒で示しながらのプレゼンテーションをしたほうが良かったと思う。折角ならアカデミアの流儀にのっとりた方が大学への接続が良いと思う。グラフや表についても縦軸、横軸が何を示しているのか解りにくかったが、これらもアカデミアの流儀で作ればもっと良いものになる。そのようなことを指導していただければと思うし、お手伝いできるのではないかなと思う。

(校長) 理数探究を最終的にアカデミックなものに繋がるように論文形式にまで持っていきたいと考えた時に、問いの立て方が直感的すぎて、何が課題で何が解決できるかという問い立てがされていないのではないかと理数科長とも話をしたところである。先行研究や文献調査が足りないのではと思う。ネットからの参考文献だけではなく、ブルーバックス等の専門書を読むというような指導ができないかなと思う。問いの立て方に有効な工夫等があれば御教示いただきたい。

○大学の卒業研究で求められているところは、実用性、オリジナリティ、学術性（アカデミック）の3つである。例えば今日の研究の中でも説明が足りない。絞るところの重点の説明が甘い。

○大学生への指導では、テーマ決めに時間をかけさせる。先行研究を調べながらテーマを考える。大きなテーマは早い段階で決めて、絞り込みには時間をかけ、且つ本人が納得するものに落とし込む。

→教員が担当できる専門科目と生徒が研究したい内容の科目のミスマッチが、この2年間は大きな課題である。

○地域の中で色々な方面でサポートができる。敷居を上げずに地域の中へ発信してもらうなど、相互のコミュニケーションによって成果が上がるのではないかなと思う。それは単に探究学習の質上げというよりも、将来の子供のために繋がるような事に賛同できる枠組みができると良い。

○テーマ設定の時に審査チェックするような事でも良い。

○研究テーマと計画をセットで見てみて、アドバイスするのも良い。

(2) 今後の浜松南高校の在り方について

ア 教員アンケートの実施について（校長説明）

校内の課題を精選してアンケートを実施した。主なものとして、

- ・7限目をなくし15時10分頃に終了し、放課後を作る。
- ・補習をある程度廃止していく。基礎学力の保証が絶対条件であるため、生徒が自学に向かうような授業をお願いしたいが、アンケート結果をみるとそのようにはなっていない。

【委員より意見・質疑 等】 ○委員 →学校関係者

○親の考えで子供の将来を誘導してはいけないと思う。子供が自発的に気づくタイミングでサポートできるような心構えが良いのではと思う。

→教職員の働き方改革もあるが、教員が楽にならないと生徒が楽にならない。

今後、補習は減らしていく方向になると思うが、一時的に学力が下がる可能性がある。授業の在り方を変えていかなければならない。

○教員が楽にならないと生徒達を見る余裕がなくなる。余裕ができた部分で生徒たちを色々な視点からサポートできた方が、結果的に生徒のためになると思う。働き方改革で生み出す余裕というものは大事だと思う。

○地域の協力を得て、教員の負担を軽減できればと思う。

○将来的に生徒が教員を目指したいと思えるようになると良い。

○卒業生はどのような職に就業しているのか？

→そこまでは把握していない。

○企業からすると、早さと質の問題は別としてアイデアの塊はありがたい。アウトプットしてくれるのであれば企業としては、アカデミックとはいかなくても、思い付きや気づきのような引っ掛かりで良い。

理数系を強化して、専門的な部分を伸ばしたいと思うし、将来的に就職した先で、専門的な分野で活躍する人材も多くいるだろうが、専門的に学ぶ形だけではなく、地域や社会と触れながら、もう少しフラットに学べる選択肢ができると良いと思う。

→今後、学校改善プレゼンや課題研究等で、アドバイスや御相談などの御協力をお願いしたい。

4 今後の予定

令和7年 2月13日(木)午前